

あかね

明石市立明石商業高等学校図書館発行



読書の
すすめ

『僕たちの国の自衛隊
に21の質問』
著者 半田 滋
校長 伊藤 雅弘

人類が一度にわたって世界大戦を経験した20世紀は「戦争の世紀」と呼ばれています。戦争や紛争が絶えることがありませんでした。新しい世紀には、戦争のない平和な世界が実現するようにと、誰もが願ったはずでした。

ところが、21世紀はその最初の年(2001年)にアメリカで同時多発テロが発生し、とんでもない幕開けとなっていました。その後、イラク戦争、イスラエル・アラブ戦争の他、各地での紛争や内戦、過激派によるテロなど、暴力の応酬は止まる所を知りません。そして、70年間不戦の誓いを守ってきた日本においても、「軍隊を持

つのは独立国として当然の権利であり義務だ」とか、近隣諸国との領土問題により、「これまでになく緊張が高まっていく」などを理由に、様々な変革が進行してきます。これまでの国の枠組みが変わってしまうかも知れない、大きな転換点を迎えているのです。

こんな時代だからこそ、私たちは「国の防衛」について正しい知識をもっておかなくてはならないと思うのです。私自身この本を読んで、自衛隊について知らないことが多過ぎたことを反省しています。決して、「マジで戦争に行くのかよ!!」というようなことにならないように。

本もおもしろいですよ

事務局長 山脇 健次

人は親からの遺伝子を受け継ぎ、親、親戚、友人、教師、恋人、上司など直接かかわりを持

つ人の影響を受け、成長し、自分の考え方と人生を確立していきます。そして、人と同様にテレビ、インターネット、本などの色々な情報にも影響も受けます。

勉強や仕事以外で本を読むことは、ゲームと同じように暇つぶしの一つといえますが、いい本との出会いは、いい先生と出会うのと同じで、生き方を教えてくれたり、人生を良い方向に導いてくれることがあります。

人によって、いい本、おもしろいと思う本は違うので、まずは読んでおもしろい本を見つけ、読む習慣を身に付けること、案外、読書に夢中になれるものです。いろんな本を読むうちに、人生を変えてくれる本に出会えるかもしれません。

私が出会えてよかったと思う本に、山崎豊子著「沈まぬ太陽」があります。自分の良心に従うこと、苦難の道を歩むことなく歯を食いしばって生きる主人公を見て、

勇気づけられるとともに、スッキリとした気持ちになることができました。最後に、本はけっこう高額です。図書館を利用しましょう。

『警官の血(上・下)
「警官の条件」
著者 佐々木 譲
教頭 寺岡 正人

戦後まだ間もない頃から平成にかけて、安城清二・安城民雄・安城和也の三代(祖父、父、息子)にわたる警察官の物語です。

生活のために警察官という職を選んだ清二は、誠実な警察官として駐在所勤務をしていたが、担当区域で発生した2つの未解決殺人事件を独自に調査中に不可解な事故で命を落としました。

その息子である民雄は経済的な問題から高校卒業後に警察官になったが、優秀な学力を買われ身分を隠して北海道大学に入学して学生運

動組織への潜入任務
与えられ、組織解体の
柄を立てる。しかし、潜
入任務の緊張感や学生
仲間を裏切ったことか
ら心を病み、荒れた結婚
生活を過ごし、立てこも
った覚醒剤中毒者から
人質を守るために殉職
します。

三代目の和也は、父への
反発から警察官とな
り、辣腕であるが暴力団
との癒着が問題視され
ている悪徳警察官であ
る上司の内偵を命じら
れ、退職に追い込む。仲
間からは「上司を売った
男」として白い目で見ら
れるが・・・。

派手なアクションはあ
りませんが、昭和から平
成にかけての時代の倫
理やキャリア幹部の抗
争に振り回された三代
の警察官を通じて、警察
官の矜持とは何かを考
えさせてくれます。特に
「警官の条件」は安城和
也のその後が描かれ、善
とは何か悪とは何かを
読者に問うとともに、組
織の理不尽さや仕事の
厳しさを教えてくれる
小説です。

「本と賞」
教頭 橋本 浩二

本に対して与えられる
賞はたくさんあります。
特に有名で皆さんも知
っている賞に「芥川賞」、
「直木賞」があります。
「芥川賞」は純文学が、
「直木賞」は大衆文学が
対象だそうです。(私に
は純文学と大衆文学の
違いがわかりませんが)
多分皆さんは「芥川賞」、
「直木賞」といわれても
その本に手は伸びない
のではないのでしょうか。
(私は伸びません)
私は本屋さんが大好き
で仕事の帰りにたびた
び寄ります。(ここ数年、
私に本を買わせる賞は
「このミステリーがす
ごい!」と「本屋大賞」
です。「本屋大賞」とは
本屋さんで働く人がお
客さんに読んで欲しい
などと思う本を選んで投
票している賞です。この
二つの賞の一位になっ
た本はほとんど読んで
います。「芥川賞」、「直
木賞」と比べてとにかく

読みやすい作品が毎回
選ばれています。

「本屋大賞」や「この
ミステリーがすごい!」
に關しては選考方法で
批判されることもあり
ますが、本を日頃読ま
ない人にとっては、読む
きっかけになる素晴ら
しい企画だと私は思っ
ています。

今年度の「本屋大賞」
の発表は四月上旬だと
聞いています。ぜひ皆
さんも注目して手に取
ってみてください。

『もし高校野球の女子
マネージャーがドラッ
カーの『マネジメント』
を読んだら』

著者 岩崎夏海
総務部 安藤 功二

私は小学生からずっと
野球を続けています。こ
の本に出会ったのは、大
学一年生の時で、女子マ
ネージャーがマネジメ
ント(経営)を通じて、
どのように野球部の運
営をし、チームを動か
していくかに興味を持
ちました。
本は、ドラッカーの

「マネジメント」を基本
に構成されています。ド
ラッカーのマネジメント
という言葉だけを聞く
と難しく思ってしまう
人もいると思います。し
かし、この本は廃部寸前
の野球部を立て直し甲
子園へ行くという。女子
マネージャーの観点か
らの物語で書かれてお
り、軽いタッチの小説で
有りながら随所に「マネ
ジメント」の内容がわか
りやすく引用され、身近
な単語で表現されてい
るので、とても読みやす
い本だと思います。

マネジメントを理解す
ると、人を管理する能力、
人を動かすことができる
能力、人との接し方を学
ぶことができ、人間関係
を築いていくときにも必
要なポイントにもなる
と思います。

将来、経営者になりた
いなど思っている人は、
ぜひ一度この本を手
に取ってみてください。



「猫旅レポート」

著者 有川 浩
保健部 井奥 環

あまり本を読まない私
でしたが、社会人になっ
てから何かと時間を見
つけては本を読むよう
になった気がします。そ
うの中で友人から有川浩
という作家を教えても
らいました。読みやすい
文章や物語の流れに引
き込まれ「学校にある有
川浩を網羅する」と単純
な目的で昨年この本に
出会いました。物語の大
半は猫のナナ目線で描
かれています。猫目線の
面白さやペットと飼い
主の関係が、私には引き
込まれるポイントの一
つでした。私も犬を飼っ
ていますが、はたして私
は彼とどんな関係を築
けているのだろうかと思
い、その日から彼を見
る目が少し変わったよ
うな気がします。有川さ
んの本は、日常が暖かく
描かれています。何気な
い日々で退屈を感じた
学生時代。社会人になり

気になることはその時にチャレンジし、好きなことを好きな時に楽しんできました。こんな私ですが、これらの本を読みます。「日常」というものが素敵に見えたのは確かです。予定をつめるのもいいけれど、何も無いオフの日を作るようにしようと思ったのもこの頃からです。何もない「空白」を楽しみ「余白」を味わう。本に出会うタイミングが良かったのでしよう。自分がどんな状況の時に何を読むかで考え方や生き方に選択肢が増えると私は思います。

「生物と無生物のあいだ」
著者 福岡 伸一
一年四組担任 井上 卓大

本を読む習慣はほとんどありませんが、この本は、大学時代にとあるきっかけで読んでみた本です。

「生き物」って何ですか？という問いは、なかなか答えにくいものではないでしょう。しかし、ある動

物を見て、「あれは生き物ですか？」、こう問われると多くの人は答えられるでしょう。この本は、答えにくい「生き物とは何か」という問いに對して、一つの答えを提示してくれています。生き物とは「体」という決まった範囲の中で、絶えず（いろいろな意味で）入れ替わりを起こしている「ものである」とされています。もう一つ、読んでいて驚いたことは、「機械の時間は無限であるが、生き物の時間は有限である。」こと、さらに「この有限な時間の中で、体の中で起きたわずかな入れ替わりのミスの積み重ねで、生き物は致命的病気を発症する」ということです。ガンなどの命に関わる病気は、体内であるとき突然発生してしまうと思っていました。若いきからの積み重ねによるものだと気づかされました。

健康に生きられるよう生活習慣に気をつけていきたいものです。

『アンネの日記』
事務局 内田 典子

読書の薦めということ
で『アンネの日記』

を挙げたいと思います。第二次世界大戦中、ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害から逃れた隠れ家で、十三歳から十五歳の二年余り、一人の少女が書いた心の記録です。父親から誕生日にももらった日記をキティという架空の友とし、友だちとおしゃべりすることやスポーツをすることなど許されなかった不自由な環境の中で、母親への反抗心や将来への不安を書くことで紙に手放し、心の均衡を保っていたのです。

限られた時間の中でも皆で楽しんだジャムづくりや、日常のささやかな共同作業を音が聞こえてくるようにアップテンポに描き、希望とユームアを忘れなかったことが救いです。中学ではどこからでも読める日記、言葉の魅力として読んでいたこの

本を、また時を経て読み返すと、過酷な時代背景、命の危険と隣り合わせの中でも、愛情と忍耐を持って子どもを守った大人がいたこと、自らの命をかけてユダヤ人を守るうとした人たちがいたことが読み取れます。一度読んだ本を読み返す行為は、また違った心境をもって心に響いてくるのだということをお教えてくれる一冊です。

ほっこり時間
〜リラックマ生活9〜
保健部 大村 真以

みなさんには、「ほっこり」する時間がありますか？温かい飲み物を飲みながらのんびり過ごしたり、ひなたぼっこをしてみたり、大切な人とおしゃべりしたり…ほっこりの時間は人それぞれだと思いますが、心をほっこりさせて、心の健康を保つことは、いきいきと自分らしく生きるために必要なことだと思います。私はちよつと頑張りす

ぎちゃったときや毎日が同じにみえたとき、もうやつてられないとき、そんなときにこの本を読みます。この本にはだらだらした毎日をおくるリラックマのひとりごとがたくさんおさめられています。私の心に響いたのは、「なにもしない日がない」と毎日にならなかわからなくなり「よ」という言葉です。何もしない日を作ることではなく、積極的に「今日は休む日！」と決めてのんびり過ごすようにしています。不調を訴えて保健室に来る生徒の中には「毎日忙しくて休めない」という人がいます。身体の休養のためにも、自分と向き合うためにも、心のエネルギーを補充するためにも、何もしない時間（自分のための時間）を作ってみてはいかがでしょう。かわいイイラストも書いてあるので、是非一度手にとってみてください。

少し気になるタイトル

情報図書部

乙野 友美

「本」と聞いただけで、めんどくさい：漢字が：という声を聞くことがよくあります。

私もみなさんと同じ高校生のは、そう思っていました。そんな私が本を読むようになったきっかけは、自分の好きな本がどんなものかわかった時でした。

ある日友達と暇つぶしで図書館に行くことになり、ちよつと気になったタイトルの本を手にとって最初の1、2ページを読む、気に入らなければまた次：としていたところ、「この本は読みやすく、続きも気になる！」と思った本がありました。その本を借りて帰って、最後まで読んであと、同じ作家のものを何冊か借りて読んでみると、それもまた面白いです。同じ作家のものは読んだので、次にどんなものを読もうか、探してみ

る。これを繰り返しているうちに、本を読むのが嫌いではなく、自分の好きな本を知らないだけだったんだと気がつきました。

みなさんにも興味がある本・本当は好きかもしれない本が図書館にもあるかもしれないで、是非本を手にとってみてください。

「本を読む楽しさ」

事務局 荻野 曜辞

本を読むことが好きでなかった私に「本を読む楽しさ」を教えてくださいました。

本は「タイムマシン」や、「万能な飛行機」のようなものです。本は、どんな時代でも、どんな国にでも、連れて行ってくれます。

何千年前のピラミッドの王国や、ルネサンスのイタリアにでも、信長や秀吉のいた戦国時代でもいけます。「タイムマシン」のように、時を超え、空を超え、どこでも行くことができます。

す。その時代に、そこにいた人たちも知らなかったようなことまでわかることもできます。

本は、いつでも、どこでも、開きさえすれば、「万能な飛行機」のように、たちどころに飛んで行くことができます。電車の中でも、バス停でも、学校の休み時間でも、トイレの中でも本を開くことができます。

自分の経験だけであれば「一人分の人生」ですが、本を読むことで、多くの人の経験や知識や人生を学ぶことができます。一生の「心の友」でもできます。もう死んでしまった大偉人や大文豪との「会話」もできます。

「本の発明」は、人類の歴史の中で、最大の発明の一つと言われます。この発明品の「使い方」「楽しみ方」を覚えたら、もう人生は、最大の武器を手に入れたようなものです。



時代小説の市井（せいせい）ものについて

事務局 小澤 恵美

歴史小説は、ほぼ忠実に基づいているのに対し、時代小説は、その時代を舞台とした空想上の物語が展開されます。「竜馬がゆく」など歴史小説も面白いのですが、ここでは時代小説、平民の人情話が主流の市井ものというジャンルをご紹介します。

市井ものといえば山本周五郎。著者が描く作品は、江戸時代の下町を舞台とした庶民の人間模様を描く作品が多く、ウイキペディアには「山本の小説に登場する人物は辛酸を嘗め尽くし、志半ばで力尽きてしまうものが少なくないが、彼らに生きる上でのヒントとなる、含蓄のある台詞を吐かせる、というのも山本の作風である。」と非常にわかりやすい寸評があります。悲惨な境遇を受けるも、読語感に優しい感情になるも

のが多く、車もテレビも携帯電話もない時代の物語は、現代に生きる私たちに色々なことを教えてくれるような気がします。

著者の読みやすい短編でいえば「柳橋物語」がお勧めです。人気作家の宮部みゆきも市井もの作品が多くあります。物語を形成する背景もリアリティがあり、江戸時代の社会や庶民の暮らしを垣間見ることが出来ます。あまり馴染みがないジャンルかもしれませんが、ぜひ手にとってみてください。

『空色勾玉』

著者 荻原 規子
進学指導部 川崎 由里子

私が中学生のとき、はじめて手に取ったが厚いハードカバー本が、この『空色勾玉』でした。ジャンルはファンタジー児童文学とはいえず、日本神話や古事記をモチーフにしているので読み応えがあります。

フアンタジー小説といえ、最近USJでもおなじみの『ハリポッター』が有名ですが、日本の萩原規子さんの作品も面白さでは負けていません。この本の時代設定は、授業で習うような源氏物語や竹取物語といった平安時代よりも、さらに昔にさかのぼった、イザナギ神の三人の子（アマテラス、ツクヨミ、スサノオ）が地上を支配していた時代のお話です。想像しにくいかもしれませんが、年齢は十代です。漫画のようにテンポ良く物語が展開されていくので、とても読みやすい作品です。有名な神話のエピソードを下敷きに、登場人物たちが活躍するので、国語の古典が苦手でも、興味を持ちやすいと思います。この本がきっかけで古典作品を身近に感じられるようになり、私には、大自然の情景や登場人物の表情など、文字で描写されたシーン

ンを想像して絵に描くのが好きなのですが、この『空色勾玉』は、そういった想像をかきたくてくる作品だと思います。

42. 195kmの科学ランニング「つま先着地」vs「かかと着地」

一年五組担任 島田 雄二

私は小学校の頃からずっとサツカーを続けています。その代償として、足首がよく痛みます。大きなケガをしたわけではありませんが、「使い痛み」です。

最近、家庭や仕事の事情からサツカーをする時間が減ってきました。そのため、サツカーに代わるものがしたいという想いから、一昨年から一人で、場所を気にせずできるランニングを始めました。ただ、ランニングを始めた当時、足首の痛みから途中で走るのをやめることがよくありました。そんなときに出会ったのがこの一

冊です。覚えていた方もいると思いますが、以前、私は「BORN TO RUN」という本を紹介しました。

メキシコ山奥深い渓谷に住む走る民族について書かれています。この民族はウルトラマラソン（100km以上）の山道などを走るマラソン界で最強です。この民族やマラソンで金メダルを取るアフリカの選手に共通していること、それが「つま先着地」です。想像してみてください。みなさんが長い距離（1km以上）を走るとき、つま先から着地しますか？かかとから着地しますか？陸上部は知っているとありますが、長距離を走るとき日本人や欧米人のほとんどが「かかと着地」です。しかし、「BORN TO RUN」とこの本では、「かかと着地」は効率が悪く共に危険を伴うということが書かれています。

この本を読んで、さっそく「つま先着地」で走ってみると、最初はふくらはぎの痛みで大変でしたが、いつしか足首の痛みがほとんどなくなりました。ついには、42.195kmを走りきることもできました。ランニングフォームを変えるのは簡単なことではありませんが、足首や膝の痛みで悩んでいる方は「つま先着地」試してみてくださいと面白いかもしれませんよ。

「君と会えたから...」 The Goddess of Victory 喜多川 泰

一年三組担任 空田 久美子

絶対手に入れると、情熱を絶やさず行動し続けてもかなわなかった夢など、あるだろうか？それが本当に到着した場所ならば、誰もがそこに必ず到着することができる。あなたが生きていく限りある夏の日、1人の男子高校生が1人の女の子と出会う。「僕」は、どこにでもい

る17歳の高校生。なりた職業はまだ決めていない。将来のことを決めるのは大学に進学してからも遅くないと思っ

ている。高校生最後の夏休みみだけど、勉強する気になれない。だからといって外で青春を謳歌する気持ちにもなれない。

夏休みにすることといたら、父親が経営する町の小さな書店の留守番ぐらいた。少なくとも彼女と出会うまで

彼女から「大切な教え」を受けるといふ、物語仕立ての自己啓発本です。今日という日の大切さを改めて考えさせられる感動のストーリーです。意外な結末に思わず涙があふれる物語です。

手紙屋 螢雪編著者 喜多川泰 二年一組副担任 空山 佳世

「なぜ勉強しなければいけないのか?」「自分のため?将来のため?」みなさんが一度は考えたことがあることだと思えます。また、高校生は進路についても悩む時期だと思えます。私も高校生のは進路について悩み、なかなか決めることが出来ずにいました。

この本は、私がある先生に紹介して頂いた本です。主人公は和花という高校二年生の女子高生です。大学に進学したいが、何のために進学したいか分からない。また、勉強することにはどのような意味があるのか。そのような悩みを手紙屋とのやり取りを通して考えながら、精神的に成長していく姿が記されています。手紙屋は、10通の手紙のやり取りを通して、依頼者が実現したいことを実現する手助けをします。和花からの手紙に対して手紙屋は、「勉強も一つの道具である」と答えます。何のための道具だと思



図書館より

いますか?他にもこの本の中では、自分は何のために存在するのか、夢を持ってなくなる空白の期間になぜ存在するのかについて書いても記されています。

この本を通して、みなさんが勉強や将来について考えるきっかけにして欲しいと思います。

六十回生の皆さん、卒業おめでとうございませう。恒例の卒業式前の三学期がそろった年間ラッキングです。

《個人貸出数》

1位	3の5	Sさん
2位	1の3	N君
3位	3の1	U君
4位	3の8	Sさん
5位	2の7	Oさん
5位		(32冊)

6位	6位	体育	T先生	(30冊)
7位	7位	用務員	Yさん	(23冊)
8位	8位	国語	M先生	(19冊)
9位	9位	1の7	Tさん	(17冊)
10位	10位	3の6	Yさん	(13冊)
10位	10位	3の7	Fさん	(13冊)
12位	12位	商業	O先生	(13冊)
12位	12位	2の5	Kさん	(12冊)
12位	12位	3の5	Kさん	(12冊)
15位	15位	国語	K先生	(11冊)
15位	15位	国語	K先生	(11冊)
15位	15位	2の1	O君	(11冊)
15位	15位	2の7	Tさん	(11冊)
15位	15位	3の1	Sさん	(11冊)
20位	20位	保健	I先生	(7冊)
20位	20位	1の6	Kさん	(7冊)
20位	20位	3の1	Fさん	(7冊)

《クラス対抗読書数》

1位	3の5	(120冊)
2位	3の1	(62冊)
3位	1の3	(52冊)
4位	2の7	(45冊)
5位	3の2	(43冊)
6位	3の8	(34冊)
7位	1の7	(18冊)
8位	3の6	(17冊)
9位	2の5	(16冊)
10位	3の7	(14冊)
(二月十三日調べ)		



「あかね」第一〇九号をお届けします。読書のおすすめには、おすすめの本の紹介や感想だけでなく、読書体験にまつわる思い出やエピソードなど、様々な切り口で語ってくださった原稿が集まりました。今年度、新しく着任された先生方等を中心にご覧に上がりましたところ、快くご承諾いただきました。生徒の皆さんの新たな本との出会い、そして新たな世界との出会いのきっかけになります。今年度の貸出に関するランキングを掲載しています。

(図書館長)



編集後記